

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法演習 I - 2		必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 祐太 他	D318	y.sakamoto	金曜日 9:00~10:30		
授業の目的・概要	理学療法では解剖学、生理学、運動学の基礎医学の知識が必要不可欠である。そこで、理学療法演習 I-2 では、班での GW とレポートによって、理学療法に必要な基礎医学や疾病への理解を深めることを目的とする。				
学習上の助言	授業内外の GW が重要となる。また、前期に学修した基礎医学の知識について復習をしておくこと。				
教科書	トートラ 人体の構造と機能 第4版/編訳:桑木共之、黒澤美枝子、高橋研一、細谷安彦/丸善株式会社 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版/監:青木隆明/著:林典雄/メジカルビュー/2012 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版/監:青木隆明/著:林典雄/メジカルビュー/2011				
参考書	解剖学、生理学、運動学で使用している教科書				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	理学療法における基礎医学の意義を理解し、説明できる。			PT (1)、(3)、(6)	
②	理学療法における疾病の知識の意義を理解し、説明できる。			PT (1)、(3)、(6)	
③	理学療法における GW の活用方法を理解し、実践できる			PT (2)、(4)、(5)	
④	理学療法におけるプレゼンテーションの方法を理解し、実践できる。			PT (2)、(4)、(5)	
⑤	理学療法におけるレポート作成方法を理解し、作成できる。			PT (2)、(5)、(6)	
⑥	骨・筋の触診技能を習得し、特徴や機能について説明できる。			PT (3)、(4)、(5)、(6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	「概要」 担当 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平> 理学療法演習 I-2 の学修内容について解説する。A・Bクラス合同でのアイスブレイクを行う。	講義	授業内容について講義をする。		1
2	「問題解決型学習①-1」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平> 理学療法に関連する基礎医学の内容について、GW での討論によって理解を深める。GW の方法論について講義で復習し、GW 班での自己紹介をする。	講義・GW	基礎医学の知識を用いる課題に対し、GW での討論、プレゼンテーション、発表を通じて理解を深める。また、演習担当教員からの指導を受ける。		1
3	「問題解決型学習①-2」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 理学療法に関連する基礎医学の内容について、GW での討論によって理解を深める。	GW			1
4	「問題解決型学習①-3」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 理学療法に関連する基礎医学の内容について、GW での討論によって理解を深める。	GW			1
5	「問題解決型学習①-4」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 理学療法に関連する基礎医学の内容について、GW での討論によって理解を深める。	GW			1
6	「問題解決型学習①-5」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> プレゼンテーションの発表をする。	講義			1
7	「問題解決型学習①-6」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> プレゼンテーションの発表をする。	講義			1
8	「問題解決型学習②-1」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平> 理学療法に関連する基礎医学の内容および疾患について、レポートを作成する。冒頭でレポートの作成について説明する。	講義			基礎医学の知識を用いる課題に対し、個々でレポートを作成する。演習班内でディスカッションをすることで、個々のレポートの完成度を高める。
9	「問題解決型学習②-2」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 理学療法に関連する基礎医学の内容および疾患について、レポートを作成する。	課題型			1

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

10	「問題解決型学習②-3」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 理学療法に関連する基礎医学の内容および疾患について、レポートを作成する。	課題型		1
11	「触診課題-1」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 上肢の骨および筋についてグループで学習する。	GW・実技	上肢の骨・筋の解剖学、運動学について確認し、触診する	1
12	「触診課題-2」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 下肢の骨・筋についてグループで学習する。	GW・実技	下肢の骨・筋の解剖学、運動学について確認し、触診する	1
13	「触診課題-3」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 頭部・体幹についてグループで学習する。	GW・実技	頸部体幹の骨・筋の解剖学、運動学について確認し、触診する	1
14	「触診課題-4」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 触診についてグループで総復習する。	GW・実技	課題の骨・筋について確認し、触診する	1
15	「触診課題」 担当 <坂本祐太・甘利貴志・川内翔平・他> 触診について実技試験をする。	実技	触診の実技試験を行う。	1
試	達成度評価および評価のポイントを参照すること			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		30	30	40	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	10	0	5	0	0	15
	思考・推論・創造する力	5	10	5	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	5	10	5	0	0	20
	コミュニケーション力	5	0	5	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	5	5	5	0	0	15
	問題を発見・解決する力	0	5	10	0	0	15

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	骨・筋の触診を実技試験にて成績判定とする。演習班（グループ）単位での採点とする。採点の一部には、学生同士による取り組み評価を用いる。	実技試験の実施後、教員より解説を行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①	「問題解決型学習②」についてレポートを提出し、成績判定とする。	必要に応じて、解説を行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表	①	「問題解決型学習①」の発表（40%）を評価し、成績判定とする。成績判定には、教員による GW 評価および発表評価に加え、演習班内の学生同士による評価を用いる。学生同士による評価では、課題への取り組みと参加の評価、さらに他班からの発表評価を含む。	必要に応じて、解説を行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

備 考

理学療法演習 I -2 は問題解決型学習①、問題解決型学習②、触診課題の 3 構成である。GW では班単位での活動をする。各班には担当の教員が配置される。第 2～10 回までの GW では、PC を使用するため必要に応じて持参すること。

「問題解決型学習①」では、基礎医学（解剖学、生理学、運動学）の知識を統合する必要がある題材について、**A・B 混合した班での GW** で学修をする。「問題解決型学習②」では、基礎医学に加えて疾患の知識を必要とする題材について**個々で学修**をし、レポートを作成・提出する。第 11 回以降は筋解剖を中心に理学療法評価ならびに治療に必要な骨・筋の名称・部位ならびに触診技術を学修する。触診の実技試験は演習班単位での採点になるため、演習班で協力し、グループ学習にあたること。なお、触診のしやすい恰好をしてもらうこと。

**担当教員：**◎坂本 祐太、三科 貴博、粕山 達也、関口 賢人、関根 聡美、遠藤 悠介、駒形 純也、玉木 徹、大塚 篤也、高村 浩司、川内 翔平、他

**教員の実務経験：**理学療法士として 7 年の臨床経験がある。

**実践的授業の内容：**前期に学修した基礎医学の知識を統合し、演習によって理解を深める。また、2 年生の予習として運動療法学、病理学、疾患についても触れることで、理学療法への理解を促す。

**感染対策：**大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。

今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって授業形態の変更など、再度シラバスの変更がある可能性がある。また、授業の進行状況により、一部変更される場合がある。

※GW（Group Work の略）